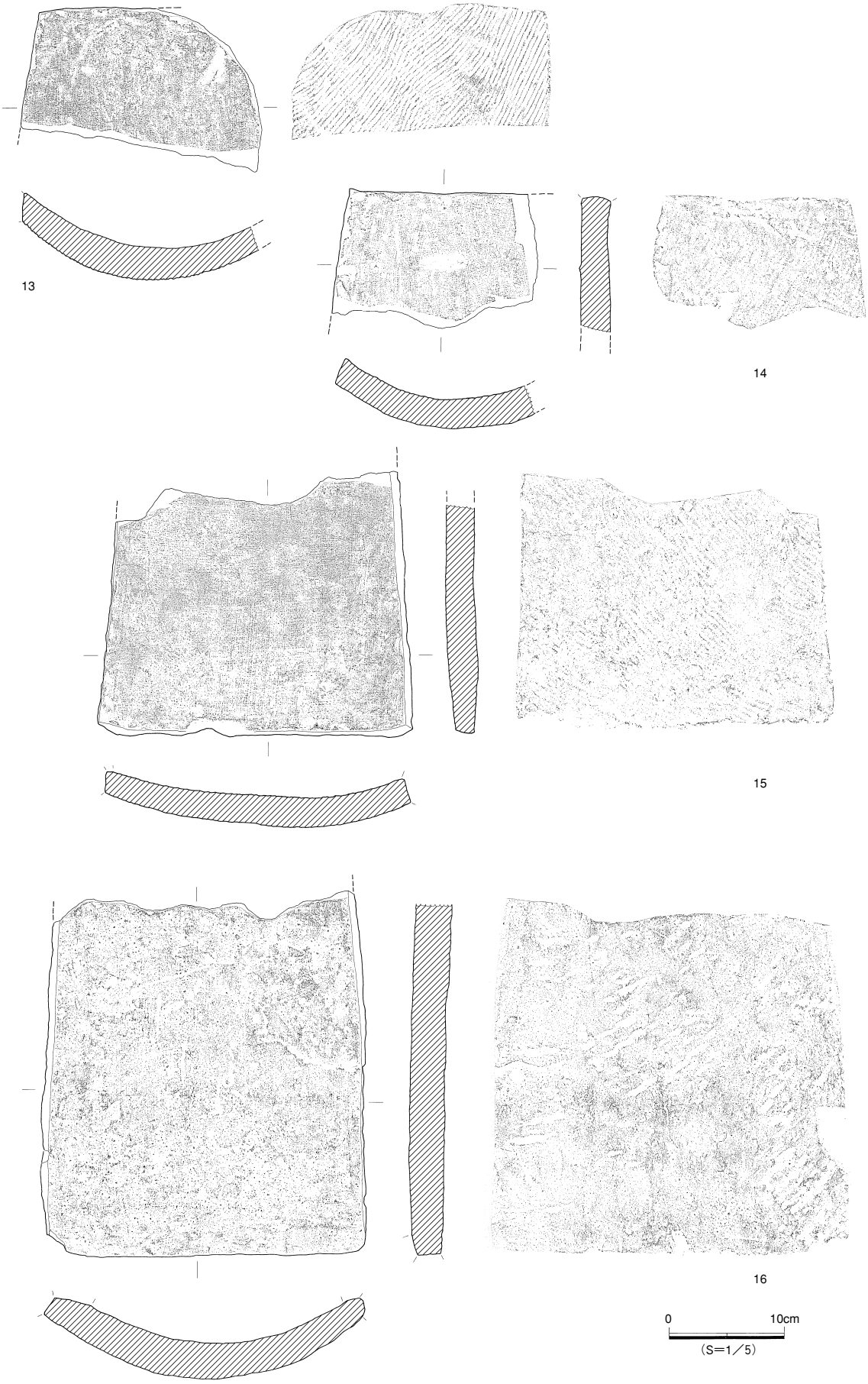


第169図　出土遺物（Ｓ＝1/5）

凸面の一次調整は平行タタキ**9**・**13**・**14**と，太い縄目タタキ**11**・**15**・**16**があり，平瓦**13**を除いて二次調整はナデて仕上げている。

凹面は布目圧痕が６～13本／㎝と，丸瓦に比べやや粗い布を使用し，平瓦**15**には布目圧痕の上に離れ砂が付着している。側面は側縁を浅く削り，端面も**9**・**10**・**12**・**16**の端縁を浅く削り仕上げるのみで，全ての平瓦において明確に面取りを意識しているとはいいがたい。面取りといえるものは平瓦**16**のみであろう。

胎土は丸瓦と同様こまかく，長石と赤色粒を多く含んでいる。

３，まとめ

西窯の出土遺物は消費地から確認された事例は報告されておらず，古代とはいえ明確に年代を絞り込むことはむつかしい。したがって，遺物の属性を下記に挙げ将来の調査研究の進展に委ねたい。

まず，唐草文軒平瓦**1**は総社市では初見の資料で，唐草文の意匠ならびに一重の界線は平城宮式軒平瓦の退化した形状を示し，短い段顎も類例が少ない（註２）。

次に丸瓦は凸面の二次調整で縦方向に削ることが特徴で，市内の古代寺院から出土する７～８世紀代の丸瓦と比較すればヨコナデするものが多くタテケズリは認めがたい。明確にタテケズリを施す丸瓦は御所遺跡ＳＥ０１で出土した平安時代の軒平瓦で認められ，時期的に後出する要素と考えられる（註３）。

さらに，平瓦は全て一枚作りによる製作であり，凸面は平行タタキと太い縄目タタキで，粗い成形となっている。平瓦一枚作りは一般的には国分寺造営を機に普及すると考えられており，かつての備中国分僧寺の発掘調査成果でもこうした見解は追認されている。しかも国分僧寺の瓦と較べると焼成不良ではあるが，胎土が細かく焼きしまっており，瓦窯自体の技術改良を経て良質の瓦生産へ移行している状況が看取できるのである。

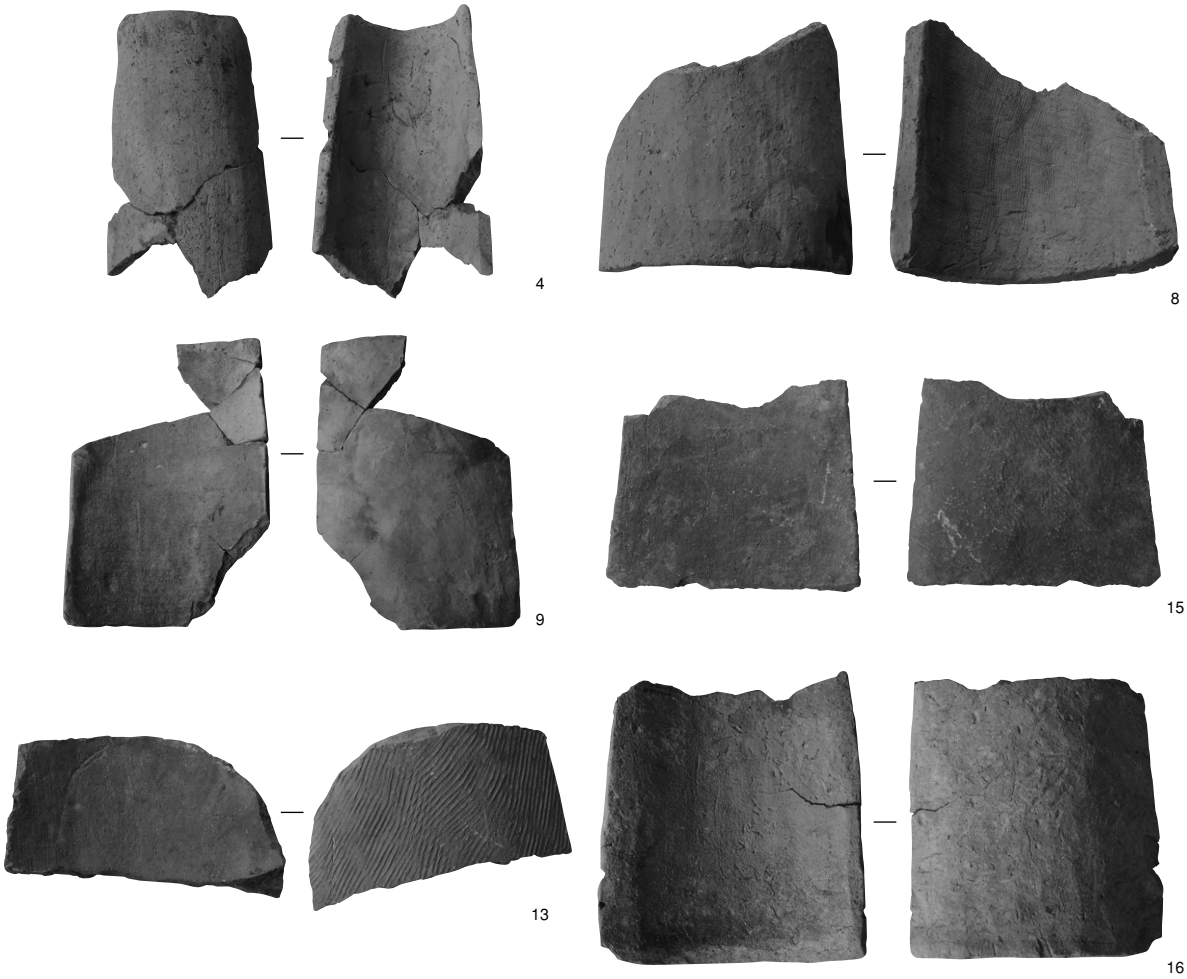
西窯の瓦は奈良時代の瓦に較べて後出する属性が多いため，ひとまず平安時代に収まる資料と考えておきたい。（松尾）

註１　『改訂　岡山県遺跡地図　第５分冊　倉敷地区』岡山県教育委員会　平成15年
註２　「北溝手遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』209　岡山県教育委員会　2007年
　　北溝手遺跡　河道３から出土した軒平瓦は，同じ形状の段顎で胎土に赤色粒を多く含む。筆者実見。
註３　「国府川改修工事に伴う発掘調査⑴」『総社市埋蔵文化財調査年報』15　総社市教育委員会　2006年

第170図版　宮路谷瓦窯全景（北東から）

第171図版　東窯（東から）

第172図版　東窯　底部の瓦（東から）



第173図　西窯の出土遺物

追記

宮路谷瓦窯は，すでに土地所有者よりその存在について報告を受けていたものであるが，具体的な情報としては岡山県と市町村職員とによる岡山県内詳細分布調査（平成11年度）の成果に負うもので，『改訂　岡山県遺跡地図　第５分冊』により周知された。

調査は2004年11月８日に行った。駐車場として，さらに敷地を広げる計画にあたり事前調査を行ったものである。東窯については断面に窯の存在を示す赤黒い焼成壁が露出していることを確認し，また西窯については赤く焼成を受けている箇所を認めたものの，その多くが崩落による再堆積との感触を得た。既存の物置小屋を建てる際の敷地造成により露出したであろう西窯が，風雪を経て崩落したものと思われる。このことから東窯は現況での写真撮影，西窯は崩落土を除去して遺物の採集を行うとともに，わずかでも窯が残されている可能性を求めて調査を行った。その結果，西窯は残された窯体部分は検出できず，全壊したものである。

今回の資料報告は，『大文字遺跡（栢寺廃寺）』（総社市埋蔵文化財発掘調査報告書20，2009年３月）において瓦の参考資料として掲載する予定であったが，諸般の事情により，本年報で出土遺物についての報告をすることとなったものである。（前角）

第174図版　調査地近景

第175図版　東窯断面

報　告　書　抄　録

ふりがな	そうじゃしまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	総社市埋蔵文化財調査年報
副書名	
巻次	
シリーズ名	総社市埋蔵文化財調査年報
シリーズ番号	19
編著者名	谷山雅彦・平井典子・武田恭彰・前角和夫・高橋進一・松尾洋平
編集機関	総社市教育委員会
所在地	〒719-1192　総社市中央一丁目１番１号　TEL0866-92-8363
発行年月日	2010（平成22）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かんばら 上原遺跡	岡山県 総社市 上原	33-208	303	34° 67’ 37	133° 71’ 59	３月２日 ～３月19日	約83㎡	携帯電話 基地局の設置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上原遺跡	集落	弥生	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	弥生土器 石器･石製品	人面土製品の出土

総社市埋蔵文化財調査年報　19

平成22(2010)年２月26日印刷
平成22(2010)年３月31日発行

編集発行　総社市教育委員会
岡山県総社市中央一丁目1番1号

印　　刷　サンコー印刷株式会社
総社市真壁871－2